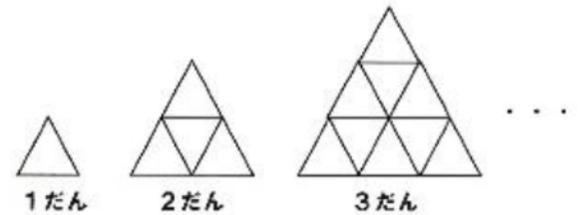


# 活ママの 教えてくださる？

—算数編—



7番目まで調べてから、「わかりません」と言う



活ママ「先生、教室のお兄ちゃん（四年生）から、『1だんめで答えるのは予言者って教えてもらったよ』と自慢げに言うんです」

塾長「お母さん、二年生で四年生の言葉が響くなんてすごいことですよ。確かにお兄ちゃんの方も自信満々で説明していましたからね。とてもうれしかったのでしょね。

小学校でも四年生になると『変わり方』を学習します。でも、思考力検定

の方では、もっと早い段階で出題されます。このピラミッド状の△の問題だけれども、十段目の△の数は？、十段の△の数は？、十段の三角形の周りの長さなどは？など、問い方も様々です。

データを集めて表にして、変わり方の規則性に着目するのですが、思考力検定では、そのお作法は示されないので、自分で作らなければいけません。ただ、どうしても早く答えようとして、この大切な準備を端折ってしまう傾向があるんです。

小学校の飛び込み授業で、その学級の学習規律を把握するために、こんなウォーミングアップをします」

授業者「今から数字を順に言っていきます。5番目の数を答えなさい。1番目、1」

児童「ハイハイ」「5」「9」「10」「16」…

盛り上がるんですよ。これが。活気が出てるように見えますが、学習秩序の未成熟な学級ほど喧噪な状態になります。なぜかと言うと、当てっこだから。

授業者「2番目、2」

児童「ハイハイ」

授業者「3番目、4」

ここで空気が変わらない学級は相当深刻です。それと同時に、授業者が1と言った段階で16を答えてしまう子どもも心配です。クイズ番組のような、早押ししてでも正解しないと得点にならない風潮ですから、速さが要求される授業下では、速いことがもてはやされ、そういう子どもが一定数できあがってしまいません。

活塾ではクイズのような算数をしていません。3番目を聞いて答えるとして

も、それは答えではなく、答えになる可能性を場合に分けて説明しなければいけません。1番目や2番目でわかるのは予言者かペテン師、またはそれに引っかけやすい人ですからね。

この言葉は、顧問の細水先生に教えていただきました。また、逆の方向から、『3つだけ見て、『きまりがわかりません』と言つてはいけません。7番目まで調べてから『わかりません』と言うのですよ。』とも教えていただきました

活ママ「よくわかりました。1だんめで答えるのは予言者って、そういう意味が込められた言葉だったんですね」

塾長「そうです。細水先生は、できる、わかるから「味わう」算数にとおっしゃいます。まわりみちしなながら算数を味わっていきましょう」

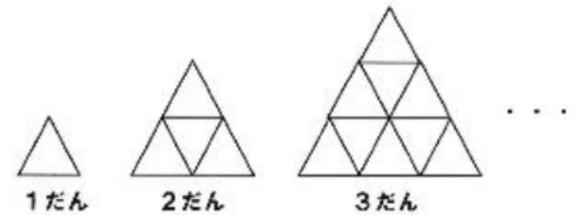


# 活ママの 教えてください？



## —算数編—

7番目まで調べてから、「わかりません」と言う



活ママ「先生、教室のお兄ちゃん（四年生）から、『1だんめで答えるのは予言者って教えてもらったよ』と自慢げに言うんです」

の方では、もっと早い段階で出題されます。このピラミッド状の△の問題だけれども、十段目の△の数は？、十段の△の数は？、十段の三角形の周りの長さなどは？など、問い方も様々です。

データを集めて表にして、変わり方の規則性に着目するのですが、思考力検定では、そのお作法は示されないので、自分で作らなければいけません。

ただ、どうしても早く答えようとして、この大切な準備を端折ってしまう傾向があるんです。

小学校の飛び込み授業で、その学級の学習規律を把握するために、こんなウォーミングアップをします」

で説明してましたからね。とてもうれしかったでしょうね。

小学校でも四年生になると『変わり方』を学習します。でも、思考力検定

授業者「今から数字を順に言っていきます。5番目の数を答えなさい。1番目、1」

児童「ハイハイ」「5」「9」「10」「16」…

盛り上がるんですよ。これが。活気が出てるように見えますが、学習秩序の未成熟な学級ほど喧嘩な状態になります。なぜかと言うと、当てっこだから。

授業者「2番目、2」  
児童「ハイハイ」  
授業者「3番目、4」

ここで空気が変わらない学級は相当深刻です。それと同時に、授業者が1と言った段階で16を答えてしまう子どもも心配です。クイズ番組のような、早押ししてでも正解しないと得点にならない風潮ですから、速さが要求される授業下では、速いことがもてはやされ、そういう子どもが一定数できあがってしまいます。

活塾ではクイズのような算数をしていません。3番目を聞いて答えるとし

ても、それは答えではなく、答えになる可能性の場合に分けて説明しなければいけません。1番目や2番目でわかるのは予言者かベテンス、またはそれに引っかけやすい人ですからね。

この言葉は、顧問の細水先生に教えていただきました。また、逆の方向から、「3つだけ見て、『きまりがわかりません』と言ってはいけません。7番目まで調べてから『わかりません』と言うのですよ。」とも教えていただきました

活ママ「よくわかりました。1だんめで答えるのは予言者って、そういう意味が込められた言葉だったんですね」

塾長「そうです。細水先生は、できる、わかるから「味わう」算数にとおっしゃいます。まわりみちしながら算数を味わっていきましょう」

